令和２年度第１回板橋区環境教育推進協議会

議事録

令和2年11月16日
板橋区資源環境部環境政策課

第１回板橋区環境教育推進協議会

令和２年１１月１６日（月）

〇田島環境政策課長　それでは、定刻になりましたので、ただ今から令和２年度第１回板橋区環境教育推進協議会を開催させていただきます。

本日はお忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。司会を務めさせていただきます、環境政策課長の田島です。よろしくお願いいたします。

なお、本日は、三枝節夫委員、山田誠治委員よりご欠席とのご連絡をいただいております。

まず初めに、コロナ禍での開催ということで、皆さまには、感染防止対策として手指の消毒、マスクの着用等ご協力いただき、誠にありがとうございます。本会場におきましても、座席同士の距離の確保、定期的な換気などを行っております。

また、質疑の際のマイクにつきましては、ご使用ごとに除菌ティッシュによる消毒を実施させていただきます。大変お手数ですが、ご発言が終わりましたらその都度、マイクを職員にお渡しいただきますようお願いを申し上げます。

また、会議時間につきましても、事前に差し上げました通知には、１４時から１６時と記載させていただいておりますが、こちらも感染症拡大のため、会議時間を短縮させていただき、本日の会議におきましては、７０分程度、１５時過ぎの終了を予定させていただております。限られた時間の中での開催となりますが、忌憚のないご意見をいただければ幸いでございます。

もしお時間が足りないような場合には、後日メールなどでお聞かせいただければと考えております。ご理解とご協力をあらためてよろしくお願いいたします。

まず開会に先立ちまして、協議会委員の変更がございましたのでご紹介させていただきます。本来ならば、板橋区長より委嘱状をお渡しするところですが、区長は本日所用のため出席できません。代理といたしまして、渡邊資源環境部長より、委嘱状の交付をさせていただきます。それでは、お名前をお呼びいたしますので、自席にてご起立をお願いいたします。

板橋区立小学校ＰＴＡ連合会　野田義博委員、板橋区立中学校ＰＴＡ連合会　秋葉芳枝委員。

（委嘱状交付）

続きまして、教職員の方にも変更がございましたので、ご紹介いたします。なお、教職員の方の任命書交付は省略させていただきます。

上板橋第一中学校校長　長岡直行委員。

変更のあった委員のご紹介は以上となります。

それでは、留意事項と配布資料の確認をさせていただきます。

（資料確認）

それでは早速議事に移りたいと思います。ここからの議事の進行につきましては、小澤座長にお願いしたいと存じます。小澤座長、よろしくお願いいたします。

〇小澤座長　皆様こんにちは。昨年１０月の協議会も私が座長として対応する予定だったのですが、ちょうど、中国の武漢に行っていました。無事に戻ってきたのですが、年が明けてニュースを見たときはまさかこんなに続くとは思いもよりませんでした。ただ、環境教育おいても、私たち自身がどう自然と共生するのがいいのか、そして自分たちが健康に暮らすのはどうなのか。この夏も、熱中症でお亡くなりになる方が多く、首都圏に一極集中するということの弊害も出てきております。こういった私たちを取り巻く複雑な環境のことを、きちんと考えられ、

行動できる人を育成することが、板橋区の環境教育の大元であります。ぜひ皆さんと真摯な議論を重ねて、より良い方向性を持って進めていきたいと思います。どうぞご協力よろしくお願いいたします。

それでは、次第に基づきまして、議事に入りたいと思いますので、まず議事（１）環境教育推進プランの進捗状況について事務局からご説明をお願いいたします。

○田島環境政策課長　それでは、板橋区環境教育推進プラン２０２５の進捗状況につきまして、資料４を基にご報告させていただきます。

こちら、本プランにつきましては環境教育等促進法に基づいた計画として策定しております。また、板橋区環境基本計画２０２５の基本目標、「⑤環境力の高い人材の育成」と、「⑥パートナーシップが支える町の実現」を具体的に示した計画でもございます。計画期間につきましては、２０２５年までの１０年間です。

また、指標につきましては、１０の成果指標を設定しております。

続きまして、指標の評価につきましては、令和元年度が１０年ある計画期間の４年目であるということで、基準年値から目標値まで、４０％以上の改善をしているものを「順調」、４０％に届かないものの改善が見られるものにつきましては「漸進」、基準年値以下のものにつきましては、「停滞」と表現させていただいております。前年度の報告では、「順調」とならないものにつきましては、全て「停滞」と表現させていただいておりましたが、「停滞」のなかには基準年値から数値の改善をしているものも少なからずございましたので、今年度から「漸進」という標語を用いて、もう少し細やかに評価するように見直しを行っております。

また、今年度から「進捗率」、「進捗度」の評価に加えまして、「達成率」、「達成度」も参考値として加えております。

令和元年度の全体的な結果でございますが、成果指標の目標達成状況が表１になります。内訳につきましては「順調」が３つ、「漸進」が３つ、「停滞」が４つとなっております。

裏面の表２には、１０の成果指標の直近３年分の実績と進捗状況を掲載させていただいております。この表を見ていただきながら、順番に施策ごとの進捗状況についてご説明させていただきます。また、今年度は計画期間の中間年ということで、指標の見直しを行わせていただきました。結論から申し上げますと、指標自体の変更や目標値の変更は行っておりませんが、各指標を補う、「補足情報」を追加することで、よりきめの細かい進捗管理を行っていきます。

まず施策１「学びの機会の提供」でございますが、２つの指標ともに平成３０年度の実績値から減少し、平成２６年度の基準年値よりも下回っているということで、「停滞」となってございます。

「①全区民参加型環境保全キャンペーン参加者数」につきましては、夏の天候不良による日照不足で、打ち水キャンペーンの参加者が減少したことが影響していると考えられます。

「②環境講座参加者数」につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大や、台風の接近などで講座の開催が中止になったことが、人数の減少につながったものと考えられます。今後はリモートでの講座、教室の開催や、ホームページ、ＳＮＳを活用した情報提供を積極的に行いまして、コロナ禍でも環境教育を推進できるよう、事業展開を図っていきたいと考えております。

今後、指標に補足情報として、「環境講座等の開催回数」を追加させていただきまして、参加者数とともに、今後の推移を回復してまいりたいと考えています。

続きまして、施策２「情報の提供・活用促進」についてでございます。こちらの指標「③環境教育プログラム利用校（園）の割合」については、基準年値よりは上回ったものの、平成３０年度の実績値からは低下いたしまして「漸進」となっております。環境教育プログラムの活用が伸び悩んでいるという結果になっておりますが、区立の保育園、幼稚園、小中学校における環境教育は、板橋区環境教育カリキュラムに基づきまして、毎年着実に実施しているところでございます。今後はカリキュラムと各プログラムを関連付けるなど、より多くの先生方に活用していただけるように、検索性の向上といったWebコンテンツの改善を行ってまいりたいと考えております。

また、これまで主に区立幼稚園、保育園、小中学校に対して周知を行っていたところを、新たに児童館、あいキッズを対象としたプログラムを作成し、活用の幅を広げる取組を行っております。今後は、補足情報といたしまして、「児童館やあいキッズ等、新たな提供先の利用率」も明示させていただき、進捗管理を行っていきたいと考えております。

続きまして、施策３「人材の育成・活躍促進」についてでございます。「④人材育成に関わる環境講座参加者数」につきましては、順調に数値を伸ばしまして、令和７年度の目標値を達成しております。一方で、「⑤環境学習講師派遣人数」につきましては、平成３０年度の実績値より増加いたしましたが、平成２６年度の基準年値よりも下回っているため、「停滞」となっております。

達成率は基準を満たさなかったものの、派遣人数、派遣件数とともに増加いたしまして、多くの活動主体に、環境学習講座を提供できたと考えております。今後もＥＳＤやＳＤＧｓの視点を取り入れた指導者養成講座を実施いたしまして、エコポリスセンターの出前講座を担える人材の育成に努めてまいります。今後は、補足情報といたしまして、「派遣件数」も明示させていただき、進捗管理も行ってまいります。

続きまして施策４「場・拠点の整備・活用」についてでございます。「⑥環境登録団体」は平成３０年度の実績値から増加いたしまして、「順調」となっております。「⑦エコポリスセンター事業へのボランティア等参加人数」につきましては、平成２８年度に基準年値を下回りまして、その後順調に盛り返し、令和元年度に基準年値を上回りましたが、達成率が基準を満たしていないため「漸進」にとどまっております。

現在、夏休みエコスクールや昔遊びなどでは、区民が講師となりまして講座やワークショップなどを実施しております。今後も引き続き、板橋エコみらい塾等の指導者養成講座で、ボランティア人材の育成・確保を図ってまいります。

今後は補足情報といたしまして、「個人ボランティア登録人数」も明示させていただきまして、進捗管理を行ってまいります。

続きまして施策５「学校等での環境教育の充実」についてでございます。「⑧外部人材を活用した環境学習実施校（園）の割合」につきましては、平成２９年度から進捗が鈍く、「停滞」となっております。実績値が伸び悩んでいる要因といたしまして、保育園、幼稚園におけるエコポリスセンターの出前講座の活用率が低いということが挙げられるため、エコポリスセンターの出前講座の周知方法や内容の見直しを行い、より活用していただけるよう努めてまいりたいと考えております。

さらに、小中学校の教育課程内だけでなく、あいキッズや児童館等の新たな主体への活用促進にも力を注いでいけるよう、今後は補足情報といたしまして、「あいキッズや児童館等新た

な提供先の利用率」も明示させていただきまして、進捗管理を行ってまいります。
　最後に「行動変容」についてです。「⑨エコアクション９の実施状況」につきましては、基準年値こそ上回っているものの、平成３０年度の実績値とほぼ横ばいになり、「漸進」にとどまっております。
　「⑩環境講座受講後の知識、考え方の変化があった者の割合」につきましては、平成３０年度の実績値より上昇いたしまして、「順調」となっております。
　これらの指標は、個人の価値や考え方の変容という部分が大きく、表面的なことだけで評価することは難しいところでございますが、引き続きイベント等、またはホームページやＳＮＳを活用し、普及啓発を図ってまいります。指標について変更はございませんが、試行的な取組といたしまして、講座受講者に対しまして、一定期間経過後に調査をかける「後追い調査」を予定させていただいております。ただし、今年度は講座の開催自体がコロナ禍で中止を余儀なくされているというところで、調査の同意を得られた数はごくわずかということでございます。今後ある程度まとまった数が得られるようになった際に、報告させていただければと考えております。
　環境教育推進プランの進捗状況についてのご報告につきましては、以上となります。
○小澤座長　ありがとうございました。ただ今のご報告に対して、ご質問、ご意見いかがでしょうか。
○井上委員　区民委員の井上と申します。今、ご報告があった件で、「停滞」の指標の項目をよく見ると、共通して外部の人が参加する指標に「停滞」が多いような気がします。コロナ禍であったり、天候不良であったり、思いどおりに動けないということもあるかと思いますが、俯瞰してみると、そういった傾向があるのではないでしょうか。人間の行動を定量化するのは抵抗があるのですけれども、歩留まりみたいなものが残っているのではないか。その原因が何かというと、私見ですけれども、区民参加の施策について、区民の方が自発的に動くための動機づけが足りないと。もっとうまく機能するような方法があるのではないか。何か一方通行になっているのではないかというような気がいたしましたので発言させていただきました。
○小澤座長　ありがとうございます。ただ今のご意見に関して事務局でご意見ありますか。
○田島環境政策課長　ご意見ありがとうございます。やはり区民参加の事業につきましては、コロナ禍も当然かなり影響しておりまして、なかなか開けない、集まっていただけないような状況が続いています。確かにＳＮＳ、その他も含めまして、どういうふうにその動機づけに対して発信できるかということは、改めて研究を深めていきたいと考えております。
○小澤座長　よろしいでしょうか。そのほかのご意見いかがですか。
○藤森委員　家政大の藤森です。このコロナ禍で、指標が大きく変わるのかなという段階にきてるかと思うのです。このまま、この指標で続けていくとして、ＳＮＳ等で伝達して、目標達成がうまくいくのかどうか。これまでの参加人数だとすると、このまま来年もこの指標を使っていくことがいいのかということも出てくるような気がするのです。そうすると、本年度から、別な指標や評価基準といったものも考えながら、達成状況を確認していくことに取り組まないと、今後、評価がしにくくなるのではないか。井上さんの発言で特にそう思いましたので、よろしくお願いいたします。
○小澤座長　ありがとうございました。岩本さんは大学で、今、オンラインで授業をやっていると思いますがいかがでしょうか。ＳＮＳだけでは学生さんを参加させるというのは大変だと

思います。オンラインで参加させる方法というのはあるのでしょうか。
○岩本委員　ありがとうございます。東海大の岩本でございます。どういう開催方法にするのか、新しい生活様式に合わせた形でのセミナーのあり方とか、学びのあり方に、急激な変化が起こっていますので、それらに対応した企画立案を検討することが必要となってきています。
　もう一つ、この指標が策定された時に比べて、エコに対する基本的な価値観、社会のニーズ、あるいはＳＤＧｓや企業のＥＳＧ投資といったものに対する認知度が非常に今、高くなりつつあります。最近、私も少し調べたのですが、電通内のシンクタンクが毎年行っている調査では、ＳＤＧｓの認知度が４割弱ぐらいまで上がってきたということです。実態を見ると、２０代、３０代の人の率が高く、年齢が上がると低くなる。そういった外部的な要因も踏まえて、社会的なニーズに合わせた講座の中身を、“持続可能性”というキーワードで問い直すようなきっかけ作りの場を提供するように、心掛けられるといいのではないかなと思います。
○小澤座長　ありがとうございました。その他ご意見ありますでしょうか。
○柳委員　私は、センスオブアースという団体に入っていまして、保育園や小中学校で環境教育のお手伝いをしているのですが、このプリントを見まして、ちょっとがっかりしちゃったんです。施策５の「学校等の環境教育課題の充実」というところを見ますと、６０％台なのです。学校での環境教育に対しての考え方というか、どうしても他の教科のほうに手が回って、環境教育は後回しになってしまっているのではないかなと思うんです。その辺の原因が分かりませんけれども、もっと環境教育に力を入れてほしいと思いました。
○小澤座長　ありがとうございました。後でカリキュラム部会とプログラム部会のお話を伺いますが、学習指導要領では、たくさんの内容が環境教育、ＥＳＤに入っています。また、今年の４月から新指導要領が変わりました。評価の考え方も変わってきて、その対応も変わってきています。そして、今の新たな学習指導要領では、知識を得るだけではなく、得た知識を活用しながら思考力を高め、行動を変えていき、そして主体的に関わっていくという、ものすごくハードルが高いものになっています。これを作られた時とはまた違う内容が求められていると思います。
　また後で、ご報告していただいてから、議論を深めたいと思いますけれども、学校教育には「深い学び」が欲しい。それが行動変容に繋がると思います。例えば、打ち水であれば、何のために必要なのかが大事。緑のカーテンであれば、蒸散作用という科学的な根拠に基づいてやっていると教えること。ただ植えればいいということではないわけです。昔は、ゴーヤーを食べようという展開だけであったかもしれないけれども、今は、そこへの理屈と、板橋のまちづくりでそれがどう生かされているかとか、そういうところまで分からないと、“コロナが怖いから打ち水作戦はやらない”とか、そういうことにもなりかねない。
　この指標も、いずれは見直さないといけないと思いますけれども、この付加的なものをどう考えていくか、私もちょっと考えていきたいと思いますので、今、いただいたご質問から、また次回までに議論ができたらと考えております。どうもご質問ありがとうございました。
　それでは議事（２）専門部会についてご報告をいただきたいと思います。皆さんからのご質問、ご意見は、環境教育カリキュラム部会と、環境教育プログラム部会両方の報告を受けてから、後でまとめて受けたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
　それでは初めに、環境教育カリキュラム部会からの報告を部会長の長岡先生からお願いいたします。

○長岡委員　令和２年度板橋区環境教育カリキュラム部会の部会長を仰せつかりました、上板橋第一中学校校長、長岡直行と申します。よろしくお願いいたします。

私からは、保幼小中一貫環境教育カリキュラム部会の活動方針等と、今年度の８月から今日までの取組と進捗状況につきまして、ご報告をさせていただきます。初めに、本部会の目的等につきましてご説明させていただきます。お手元の資料５、資料６－１、６－２、６－３をご覧いただきながら、説明をお聞きください。

板橋区では、平成２０年２月にＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）の一環として、板橋区環境教育カリキュラムを策定し、平成２３年４月には、板橋区保幼小中一貫教育カリキュラムとして、内容を樹立しました。

平成２５年４月にさらに改訂をいたしました。

そして昨年度、平成３１年度には、平成２９年３月に告示されました。新学習指導要領を受けまして、この板橋区保幼小中一貫教育カリキュラムの内容を検討し、新学習指導要領の趣旨も踏まえ、ＳＤＧｓ、持続可能な開発目標への視点も含め、あらためて改訂をいたしました。

本部会は、板橋区環境教育推進協議会の専門部会として、この保幼小中一貫型の環境教育カリキュラムに基づき、実際の事業を中心に小中学校での一貫したねらいを持つ、環境教育を効果的に実施、推進していくことを目的としています。資料５にもありますように、このような冊子が基になっています。

また幼稚園での事業や、この保幼小中一貫環境教育カリキュラムに沿って、机上にあります、環境教育テキスト「未来へ」を各教科等や総合的な学習の時間で活用し、小中学校における環境教育の推進のため、実践授業を行っております。

またＥＳＤやＳＤＧｓにつきましては、お手元の資料６－１の１で簡単に触れてございますのでご覧ください。

続きまして、板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラムについて、ご説明いたします。本カリキュラムのねらいは、資料６－１の２に示してございます、次の３点です。

①身の回りの環境と同時に地球規模の環境について考え、知識、理解を深めるとともに、より良い環境づくりの主体として技能や態度を身に付けさせる。②環境に関する学習を中心として、持続可能な社会の構築を資するとともに、他者に対する思いやりの気持ちを育み、態度化を図る学習とする。③幼稚園から第９学年（追記：中学校第３学年のことを指します。以下、第７学年は中学校第１学年、第８学年は中学校第２学年を指します。）までの１１年間を見通した、保幼小中一貫型のカリキュラム構成とする。この３点をねらいとしております。

また、４歳児から第９学年までの１１年間を４段階に分け、４歳～５歳児と第１～２学年を「感受期前期」、第３～４学年を「感受期後期」、第５～６学年と第７学年を「認識・問題把握期」、第８～９学年を「評価・意思決定期」とし、発達段階に合わせ、段階ごとに設定いたしました。

「ＦＥＥＬ」環境についての感受性・共生や思いやりの心、かかわる、知る、感じる。「ＴＨＩＮＫ」環境に対する見方・考え方、主体的に問題解決を図る。「ＡＣＴＩＯＮ」環境に働きかける実践力、これまで身に付けた力を活用し、行動に移す、を明確にして育成するように計画しております。

これらを作成するに当たっては、環境を捉える視点として、資料６－１の２ページに示しておりますように、循環、多様性、生態系、共生、有限性、保全の６つを設定しております。

続いて、活動計画についてご報告させていただきます。これまでの経過は資料６－１の３（１）をご覧ください。昨年度は新学習指導要領の実施に伴い、ＥＳＤやＳＤＧｓの視点を取り入れた系統的なカリキュラムの作成に取り組みました。

資料６－２の右上に示しているように、指導案の中には、ＳＤＧｓの目標と関連を明記するようにいたしました。

保幼小中一貫環境教育カリキュラム部会の今年度の活動計画につきましては、資料６－１の（３）令和２年度活動スケジュールをご覧ください。今年度の保幼小中一貫環境教育カリキュラム部会では、改訂版テキスト「未来へ」を活用した、保幼小中一貫環境教育カリキュラム活動事例の検討、及び実践授業を計５回行い、実践事例を蓄積してまいります。今年度の重点は、ＳＤＧｓとの関連を図り、環境に対して自ら具体的な取組を実践していく子どもの育成を図ることです。

今日までに第９学年の家庭科、第６学年の理科・総合的な学習の時間で１回ずつ合計２回の実践授業を行いました。時間の関係上、詳細につきましては、お手元の資料６－２、及び、資料６－３による紙面での報告に変えさせていただきます。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、各校で行われた実践授業は、カリキュラム部会員の他、各学校の管理職や先生方数名に限られた人数で参加及び部会を実施しております。今週の１１月２０日金曜日には、新河岸幼稚園を会場として、４～５歳児による実践授業、部会を行う予定でございます。

幼小中学校の計５回の実践授業事例については、今後の検討の後、ホームページ等で公開し、区立全学校園に啓発をしていく予定でございます。

続きまして、活動内容について報告させていただきます。まず、区立学校園における環境教育の全体計画及び年間指導計画についてです。

昨年度、区立全学校園が平成３１年度の環境教育についての全体計画と年間指導計画を作成しております。本年度の環境教育、全体計画、及び年間指導計画に基づき、各学校で環境教育を計画的に進めています。

次に改訂版環境教育テキスト「未来へ」についてです。環境教育テキストの内容につきましては、板橋区の環境教育により即したものとなるよう、平成２７年に改訂いたしました。平成３０年度には、新学習指導要領の内容を踏まえ、一部改訂し、巻頭にユネスコスクール認定校による子ども環境大使発表会について、巻末にＳＤＧｓについて掲載いたしました。

最後に板橋区環境教育プログラム部会との連携についてです。昨年度、環境教育カリキュラム部会の実践授業及び部会には、環境教育プログラム部会の部員の皆様も多く参加していただきました。当日は環境教育をどのように教科等と結び付けていくとよいのか、具体的な授業展開を含め、ご参加いただいた皆様、それぞれのお立場から意見を出し合い検討することができました。

今年度はコロナ禍により、環境教育プログラム部会の皆様には、まだカリキュラム部会の実践授業を参観していただく機会をつくれておりません。今後の感染症状況を注視しながら、今年度も授業参加を中心に、当日の授業や教科等と関連させた環境教育の進め方などについて、環境教育プログラム部会と協議検討し、それぞれの学校・園や地域の実態に即した環境教育の推進を図ることができたらと考えております。

以上で、第１回の報告を終わります。ありがとうございました。

○小澤座長　ありがとうございました。それでは引き続きまして、環境教育プログラム部会の関口委員お願いいたします。
○関口委員　今年度環境教育プログラム部会の会長を務めさせていただきます、板橋第七小学校の校長、関口でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
　お手元の資料７をご覧ください。本部会の目的ですけれども、一般・未就学児・児童・生徒等の幅広い世代に向けた環境教育プログラムの作成及び活用促進というのが大きなねらいでございます。
　２番はこれまでの活動の進捗状況でございます。平成１９年度から昨年度までの流れをお示ししております。
　３番は令和２年度の活動方針でございます。これまでの経過・進捗状況の取組でも分かるように、小学校の授業に向けた環境プログラムを中心に作成しておりましたけれども、昨年度から一般・未就学児・児童・生徒も含めた幅広い対象に向けた環境プログラムの作成と活用促進を進めております。
　今年度も昨年度に引き続き、児童館を利用する親子、保育園、幼稚園の園児、あいキッズを利用する小学生向けのプログラムを作成しているところでございます。また、これまで、紙媒体として分厚いハンドブックがあったのでが、それを廃止して、ウェブ上で公開しております。見やすさと使いやすさの向上を図るという視点で「キーワード検索」「対象から探す」方法だけではなくて、教科書との対応が取れているプログラムも検索できるようになっております。それから、「活用ランキング」ということで、興味のあるところから検索するような項目も設けております。
　ちなみに、この「活用ランキング」のこれまでの状況ですと、小学校、中学校は緑のカーテンについての活用が多いという結果が出ております。そのようなかたちで、ウェブ上で活用のしやすさを求めて展開しております。また中学校の教科書の改訂に伴う検索システムも、これから見直していくというような取組を進めてまいります。
　今年度は、コロナウイルスの感染症拡大防止のために、会議形式での話し合いはできておりませんので、メールでプログラムの検討を行っています。
　２ページ目をご覧ください。今年度の検討経過でございます。メールでの実施ということで、６月に委員の方へ、実践プログラムの募集をかけて、７月に具体的な内容を提示していただくという流れでございます。プログラムの内容に関しては、ねらい、時間、場所、使用するもの、進め方、実施上の留意点、学習シートというように、細部にわたって計画を立てていただいて、部会で検討をするという流れになっております。
　第３回、８月３１日にプログラムの選定案の提示。１０のプログラムが提案されましたので、どれが実践可能なのか、検討を行いました。
　１０月から１１月にかけては選定したプログラムの実証を進めております。
　５番の内容と重複しますが、プログラムの検討に当たっては、幼児用のプログラムを検討する班と、小学生用のプログラムを検討する班で取り組んでいます。先ほどのお話で、今年度は１０件のプログラムの提案があったのですけれども、材料の集めやすさ、あるいは既存のプログラムと活動が似ていないか、もう少し詳しく詰めていかないと実践は難しいのではないかというような視点で、今年度は次の３ページに記載されている７つのプログラムに絞って進めていくことを決定いたしました。

新規プログラムは５件、１番目の「自然の温度を感じてみよう」は１１月１３日に保育園で実証済みと報告を受けております。２番目の「コロコロお絵描き～どんぐり編～」。この実証は、事務局と私の２名で、見学させていただきました。保育園の取組なのですけれども、身近な公園からどんぐりをひろってきて、そのどんぐりに絵の具で色を付けて、画用紙を敷いた箱の中でコロコロ転がして、不規則な転がりの線の面白さ、あるいは繰り返して何かの絵になっていく面白さみたいなのを、子どもたちは楽しんでいました。反面、やはり保育園児ですので、そこに至るまでの準備が大変かなと思いましたけれども、活動としてはとても有意義だったと思います。

この後「ミッション　葉っぱをさがせ」「おーい、雲」「かみかみモビール」の実証も進めてまいります。ちなみに５番目の「かみかみモビール」に関しては、１１月１８日、あいキッズで実証がありますので、私も見てまいります。

あと２件は既存のプログラムの改良ということで、これまでのプログラムと似ているところを重ねながら発展のものも含めて、新たに提案実証していく流れになっております。

４ページ目です。今後の活動予定ということで、実証を行っていくわけでございますけれども、やはり紙媒体のハンドブックからウェブ上になりましたので、今後は実際の活動の様子の動画も含めながら、検索しやすく、あるいは目で見て分かりやすい、そういうような情報発信もしていきながら、活用の幅を広げていきたいと考えております。

７番目、今年度の部会員の構成は１１名になっております。まだ引き続き今年度の活動がありますけれども、以上、進捗状況でございます。

○小澤座長　お二人の委員の方、ありがとうございました。

それでは、２つの部会の報告について、ご質問、ご意見ありますでしょうか。どうぞ。

○秋葉委員　中学校ＰＴＡ連合会会長を務めております、秋葉と申します。よろしくお願いいたします。

プログラム部会について、質問させていただきたいのですが、幼稚園は、私立も含んでいましたか？　区立幼稚園のみですか？

○関口委員　区立です。

○秋葉委員　区立のみということですか。

○関口委員　実証場所は区立です。

○秋葉委員　広くということで、児童館など乳幼児に対してやられているということですと、板橋区の幼稚園は、区立が２園で、他はみんな私立で３０ちょっとありますね。せっかく乳幼児対象にお話しされても、数的に、区立の幼稚園だけだと、どうなのですかねとちょっと思ったのですけれども。

○関口委員　分かりました。今、区立保育園も含めて実証しているところなので、情報が整理でき次第、今後はその辺も検討していきたいと思います。ありがとうございました。

○小澤座長　その他、いかがでしょうか。

○横山委員　ＮＰＯ法人いた・エコ・ネットの横山です。

今、プログラム部会にしても、カリキュラム部会にしても、対象の年齢がかなり低くなってきているなと感じます。去年あたりから、それが顕著になってきていて、幼稚園、保育園、それから児童館と、対象が小学校よりも低い年齢になってきたなと思っていて、小さい時から環境について、接する機会を増やしていこうという目的については非常に理解できるところなん

ですが、その幼稚園・保育園で学んだことが、小学校・中学校に行く過程で、どういうふうに連携して、どんなふうに発展していくのかというようなことについては、あまり感じられないので、お聞きしたいと思いました。
○小澤座長　私が答えてもよろしいですか。
　今、教育界では、「根っこ」を育てようということが言われているわけです。今までどうしても葉っぱをつけようとしてきた。でも葉っぱをつけるためには根っこがちゃんと木を支えていないといけない。根っこに学ぶ力、意欲があれば、主体的に自ら学ぶのです。自ら探求していると、学力テストのＢ問題もとてもいい成績を取ります。ところがそれがなくて大人の言うとおりにやっている子は、あまり育たない。
　私、昨年、長濱先生（西台中学校）の学校を見せていただいたのですが、ＳＤＧｓのマークが学校のあちこちに貼られていました。生徒は、何かなと思う。それで、国語の先生が、図書館にあえて本をバラバラに置いておく。ちょっと扱い切れない学際的な領域の本も置いておいておく。すると、生徒が、このテーマではこの本が関係するのではないかと図書館の本の配列を自分たちで考える。あえて放っておいて、生徒はどう動くかという展開をしていらっしゃるのですね。
　ですから、まず幼齢期・低学年から、根っこ、意欲を育む。学年が上がるにつれて、興味関心はそれぞれ違う方に伸びていくわけで、一挙に宇宙へ行く子もいれば、非常に小さな虫を大事に観察していく子もいる。
　昨年、こどもエコクラブの文部科学大臣賞を取った学校の取組ですが、熊本地震で湧き水が一時的に消えたことがあって、その湧き水の地点をプロットしていったら、断層による地震が起きていたことに気づいたのです。そういった、長年観察していることによる気付き、ＦＥＥＬですね。そして、どうしたらいいのかというところまで考える意欲。その非認知的な能力をどう育むかです。今まで日本の社会は、どうしても認知能力を重視し過ぎていた。だから、これからは非認知的な能力を伸ばそうと、今、森の学校系が一生懸命やっている。
　先走って申し上げてしまいましたけれどもありがとうございます。よろしくお願いいたします。
○横山委員　今の先生のお話は、非常によく理解できました。小さい時に、そういう根っこを育てていくことの大事さはすごく理解していて、今、板橋区がそれに取り組もうとして、対象の年齢を低くしていっているということも、理解しているんです。だけれども、それがその上に行く過程でどう発展するのだろう、どう実践しているのだろうかというところを、ちょっとお聞きしたかったんです。
○長岡委員　いいですか。カリキュラム部会では、先ほどあった話ですけれども、第９学年の家庭科の授業で、環境や３Ｒについて、もう一度確認をしています。中学校ですと、第７学年、第８学年の家庭科で環境についての授業をやります。今回、第９学年ということで、１年前、２年前の授業を振り返りながら、もう一度環境について行おうというところを実践いたしました。
　また来年の１月には、第７学年を対象に、高島第一中学校でそういう実践をする予定でございます。
　先ほどプログラム部会でも、幼稚園、保育園などでそういうところを積み重ねていきながら、小学校・中学校でどんどんそれに積み上げてやっていこうと。先ほど小澤先生からもありまし

たけれども、やはり発達段階に応じて、環境教育をどのように取り組んでいけばいいのかというようなところを、子どもたちの中で考えさせる、それで実践をさせるというところをねらいに活動をしております。以上です。
○小澤座長　ありがとうございます。その他いかがでしょうか。
○関口委員　プログラム部会では昨年度から学校教育課程以外の児童館、あいキッズにすそ野を広げようという取組を始めています。実証もまだ、昨年度１０件、今年度も１０件前後なので、まだすそ野が広がっているというには至っていないところはあるかと思います。
　小学校についても、プログラムがウェブ上になって、検索しやすくなっているという状況ですので、これから実証を重ねていきながら、どう活用していくのかというのも１つの課題なのかなと、今、お話聞きながら受け止めました。ありがとうございます。
○小澤座長　その他、いかがでしょうか。
○藤森委員　今、小中高はだいぶ授業が普通に行われるようになっていますけれども、大学はまだ遠隔授業が大半で、対面授業はかなり少ない状況なんです。つまり、学生が耳から聞いて何かを取り入れるということが、非常に少ない状態になっているのが、今の社会だと思うんです。
　幼少期から、ある程度理解できる中学、高校生、その上に、どうやって浸透させていくのかといったとき、一番根幹になる、対話・コミュニケーションがすごく少ない状況に今なってきている。そうなると、一番初めにあった評価の達成度は、伝達する手段、覚える時間が、すごく少ない状態でやっていかなくてはならない。例えば、私が考えるのは、授業の中で文字を読ませて、これで理解しましょうといっても、幼少の子は絶対できないですし、中高でも、それはかなり難しいでしょう。大学生ですら、文字からＳＤＧｓを理解していくのは相当難しい作業だと思うんです。
　例えば、語り部が語ると、耳から入ってきて、「ああ、そういうことか」と分かるように、小中高の昼食時間中に、ほんのちょっと、環境の話題を耳から入れさせてみる。そして、この親世代が、その子たちから質問を受けて返せるような、コミュニケーション力が育つと、すごく環境教育が発達するのではないかなと思うんです。そういう仕掛けを、この協議会のほうで、今後ぜひやっていただけるといいかなと思いました。
○小澤座長　ありがとうございます。幸田委員はありませんか。
○幸田委員　本当に来年がどういう状況になるのか、見えない中で、現場の先生方には大変なご苦労があるかと思います。でも、やはり、いろいろなことを想定しながら、Ａ案、Ｂ案と考えながらやっていくしかないのではないかなと思います。
　今、先生がおっしゃられた、目からだけだと、インパクトが弱いということ。私がアメリカの環境教育のＮＧＯがやっているコースを取材に行った時に、学びのピラミッドという話を教えてくれたんです。人は目から何かを学ぶ場合は、２０％身に付けると。見て、聞く場合は、それが４０％になると。やはり聞くことで、かなりアップするわけです。見て、聞いて、それについて話し合うと、６０％にアップする。さらに、見て、聞いて、話し合って、それを実際に実践すると、８０％まで行く。でも１００％まではいかない。どうやったら１００％にいくかというと、それは、見て、聞いて、話し合って、実践したものについて、第三者に教えた時にはじめて１００％自分の物になる。本当に教えることがいかに大変なことかって、自分も本当に知っていないと、なかなか教えられないんです。

このコロナ時代、目だけでしか入ってこない状況の中で、それをどうやって乗り越えていったらいいのか、本当に今まで考えなかったことについて、一生懸命ブレーンストーミングして、今回先生方がおっしゃった動画の活用など、大いに取り入れていただけたらいいなと思いました。

あと、細かいことなんですけれども、この「コロコロお絵描き～どんぐり編～」というプログラムについて、どんぐりをいろいろ触って、自然の形が画用紙に出てくるというのは、アートとのつながりもあって素敵なことだと思います。けれども、せっかくこれをやったのであれば、次の機会には、どんぐりがやがて小さな苗になり大きな木になってという、生命のシーズンの流れを、また違う季節でもう一度取り上げて、命に対する敬意とか、そういうメッセージみたいなものも取り入れながらやっていただけたら、さらに素敵なプログラムになるかなと思いました。

それと今年から、大人を含めて、皆さんに対する、そういうプログラムを作っていらっしゃるということで、大変大切なことだと思って、大変感謝申し上げたいと思います。

○小澤座長　ありがとうございます。

○岩本委員　先生方、いろいろご尽力されていることに関して、本当にすごいなと思って聞いておりました。先ほどの小澤先生のやりとりにも関連する話なのですが、カリキュラムを考える時に、ＦＥＥＬやＴＨＩＮＫを深くするためには、教員からの働きかけも重要です。これは“何でだろう”、“どうして必要なのだろうね”という問いを、子どもの興味関心を引き付ける的確なタイミングで出せることが、授業のうまさというものに結構つながっているのではないかなと思います。

これは先ほどの質問にもありましたけれども、子どもの生活世界というのは、成長していく段階によって身近な生活から地域、そして社会、そして世界全体へと、だんだん広がりを見せるのですが、基本的に“何でだろう”、“どうしてだろう”と考えるのは、学齢期が小さくても大きくても大人でも、みんな持っている力なんです。だからいろいろなプログラムを考える時に、先生方がその問いの触媒として、“何でだろう？”、“どうしてこれが必要なんだろう？”、“何で緑のカーテンは必要なの？”とか、“何でゴーヤーなの？”とかいうようなことを、小さいうちから積極的に子どもたちに問うということが非常に重要なポイントになってくるのではないかなと思います。

それからＳＤＧｓに関して、環境に関しては、１３、１４、１５にフォーカスが当たることが多いのですが、基本理念として、誰一人取り残さないということ、そして５Ｐ（Planet、People、Prosperity、Partnership、Peace）の関連性。前の会議でもお話しましたが、もう環境問題は、気候変動による環境難民を生むというような、人間の安全保障の問題にもなり得る大きな話にもなってきています。来年アメリカで大統領が変わったら、きっともっと大きなうねりが気候変動で出てくるのではないかなということもあるのですが、その辺も意識した上で、ぜひプログラム、カリキュラムを作っていただくことをお勧めしたいと思います。以上です。

○小澤座長　ありがとうございました。それでは、まだまだ皆さんご意見があるかと存じますが、その際は事務局のほうにメールで、あるいはお手紙でお伝えしていただきたいと思います。

私のほうから２点ほど。１点目は、机上に配布させていただいたチラシについて。オンラインでの環境教育リーダー育成研修についてなんですが、カリキュラム・デザイン・コースと、プログラム・デザイン・コースがあります。カリキュラム・デザイン・コースの集合型研修は、

日曜日、２時間半ですけれども、ぜひ先生たちにもお伝えいただいて、参加していただければありがたいと思います。講師派遣型研修は、地方に行って対面でやろうということになっております。

プログラム・デザイン・コースでは、１１月１１日に高知に行ってきました。㈱相愛という、プロ級の、コンサルをやったり地質調査をやったりしている会社があるのですが、その高い専門性の下に、高知の山の中と九州の地域が層になってつながっているということを、子どもたちと学習している、フィールドを持っているのです。板橋区さんにはエコポリスセンターがありますから、そういったところでも、ぜひ対応していただければ、より子どもたちの探究心を掻き立てるような展開が可能になっていくのではないかと思います。

そしてもう一点。実は私、今朝、山形から帰ってきたのです。何で山形に行ったかというと、井上ひさしさんの生まれ故郷である川西町が主催している「吉里吉里忌」に行って来たのです。井上ひさしさんの言葉に「難しいことを易しく、易しいことを深く、深いことを面白く」というのがあります。環境教育も、豊田市のある小学校では、先生たちがＥＳＤを「Ｅいいね、Ｓそれなら、Ｄできそう」というところから始めている事例もありますね。やはりそこの学校でも、根っこを育てようと取り組んでいて。そういった意味で、私たちは、どうしても難しい言葉で入ってしまいますけれども、やはり目指す概念をきちんと把握できるような学び、それからお互いの学び合い。この板橋でも、皆さんが、区民の方々が、お互い持っている知恵、知識、ご年配の方の暗黙知、生活でつないできたことを次の世代に伝えていっていただきたいと思っております。

また第２回がありますけれども、どうぞよろしくお願いしたいと思います。

私の司会役はここまでにして、事務局から次回についてお願いします。

〇田島環境政策課長　座長、委員の皆様、誠にありがとうございました。本日は大変貴重なご意見をいただきまして、重ねてありがとうございました。

今後の環境教育推進のため、参考にさせていただきたいと思います。次回の環境教育推進協議会ですが、本協議会は年に２回開催となります。第２回につきましては、年明けの２月２２日月曜日、午前１０時から。会場は本日と同じ文化会館大会議室で開催を予定しております。どうぞよろしくお願いいたします。

これをもちまして、令和２年度第１回環境教育推進協議会を終了させていただきます。誠にありがとうございました。